

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 106 ~ 107 円台での推移か

[6月29日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月22日~6月26日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.88	107.45(25)	106.07(23)	106.95	+0.08
ユーロ・ドル	1.1192	1.1349(23)	1.1169(22)	1.1225	+0.0047

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	22,512.08	+33.29	日本10年債利回り	0.013 -0.005
ダウ平均株価	25,745.60	-125.86	米10年債利回り	0.686 -0.008

=====

<来週の主要経済統計等>

- 29日 日本5月小売業販売額
独6月消費者物価指数速報値
カナダ5月鉱工業製品価格
- 30日 日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率
日本5月鉱工業生産指数
中国6月製造業購買担当景気指数
英第1四半期国内総生産 (GDP) 確報値
スイス5月小売売上高
スイス6月KOF先行指数
ユーロ圏6月消費者物価指数速報値
米4月S&Pケースラー住宅価格指数
米6月シカゴ購買部協会景気指数
米6月消費者信頼感指数
パウエルFRB議長、ムニューシン米財務長官 議会証言
- 1日 日銀短観 (6月調査)
豪5月住宅建設許可件数
中国6月財新製造業購買担当景気指数
独6月雇用統計
独6月製造業PMI 確報値
ユーロ圏6月PMI 確報値
英6月製造業PMI 確報値
米MBA住宅ローン申請件数
米6月ADP雇用統計
米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (6月9~10日分)
- 2日 豪5月貿易収支
スイス6月消費者物価指数
ユーロ圏5月生産者物価指数、ユーロ圏5月雇用統計
カナダ5月貿易収支
米6月雇用統計、米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数
米5月製造業受注
- 3日 豪5月小売売上高

【前回のレビュー】ドル円は米国での感染拡大第2波への警戒感などによって、107円を割り込む場面もみられるなど、上値の重い展開が続いた。景気回復への期待感と感染拡大第2波への警戒感が交錯する中、ドル円106~107円台で上値の重い展開が

続きそうとした。

【IMFが世界の成長率見通しを下方修正】

24日に国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを公表した。世界の成長見通しを前年比4.9%減に下方修正している（4月時点の見通しは3.0%減）。日本については5.8%減に落ち込むと予測し、4月時点の5.2%減から下方修正した。金融危機後の2009年の5.4%減を下回る水準。新型コロナウイルス感染の影響が想定以上に大きく、回復もより鈍くなると指摘し、大恐慌以来、最悪の景気後退になると分析している。

多くの国は4-6月期に底打ちするものの、日米欧は2020年後半も感染拡大への警戒感から、より緩やかな回復に留まるとしている。2021年については、世界全体で5.4%のプラス成長への回復を見込むものの、4月時点からは下方修正した。2021年の日本の成長見通しについては2.4%のプラス成長見込むが、4月時点から下方修正している。

また、IMFは25日に公表した「金融安定性報告書」の中で日本や米国の株価上昇は実体経済と隔りがあるとの警戒感を示した。各国の中央銀行の大規模な金融緩和などが投資家のリスク選好につながり、株価などの急速な回復につながったと分析している。今後の状況次第では、株価などをリスク資産が再び下落する可能性があるとしている。

【感染拡大第2波警戒の動きに】

6月22日の週に米国株は週の前半に堅調な動きを見せたものの、24日には新型コロナウイルスの感染拡大第2波への警戒感からNYダウが710ドル安となるなど大幅安となった。テキサス、フロリダ、アリゾナなどの一部の州で感染者数が急増しており、感染者数の増加が再び経済活動を制限するロックダウン（都市封鎖）の導入につながるとの警戒感も広がっているようだ。

第2波が警戒される中でも、23日までは米国株は堅調に推移しており、日本株や欧州株なども堅調な推移を見せてきた。24日には米株安がリスク回避のドル買いにつながり、ドル円は107円台を回復する動きを見せた。25日の米国株は前日の急落の反動高となった。ドル円は107円台でもみ合いが継続している。

米国では新型コロナウイルスの新規感染者数が24日に3万6000人を上回り、過去最多を記録している。これまで感染者数の拡大があまり材料視されずに米国株は上昇基調にあったが、今後はこの流れが変化する可能性が出てきた。25日にはテキサス州ヒューストンの病院で集中治療室（ICU）の受け入れ態勢が限界に達していると報じられている。同州のアボット知事は経済活動の段階的な再開を一時停止すると発表した。

25日に発表された新規失業保険申請件数は148.0万件となった。大方の事前予想の132.0万件を上回ったものの、前回の154.0万件（改定値）を下回っている。申請件数は依然として多いものの、増加ペースが減少する傾向は続いている。同日に発表された5月の米耐久財受注は前月比15.8%増となり、事前予想の10.5%増を上回り、前回の18.1%減（改定値）からプラス転換している。

景気回復への期待感と感染拡大第2波への警戒感のせめぎあいが続くようだ。米経済指標はボトムからおおむね改善傾向にあるものの、感染者数の拡大が続くようであれば、再度のロックダウンなどが警戒され、景気の足を引っ張ることとなりそうだ。そうなった場合、リスク回避の円買いだけでなく、ドル買いの動きにもつながりやすくなるとみられる。ドル円はドル買いと円買いの動きが交錯する中、106～107円台を中心とした推移が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、105.50～108.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、29日に日本5月小売業販売額、30日に日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率、日本5月鉱工業生産指数、米4月S&Pケースシラー住宅価格指数、米6月シカゴ購買部協会景気指数、米6月消費者信頼感指

数、パウエルFRB議長とムニューシン米財務長官の議会証言、1日に日銀短観（6月調査）、米MBA住宅ローン申請件数、米6月ADP雇用統計、米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（6月9～10日分）、2日に米6月雇用統計、米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米5月製造業受注などがある。

【ユーロドルは方向感の出にくい展開か】

23日に発表されたフランス、ドイツ、ユーロ圏の6月の購買担当者景気指数（PMI）速報値が予想以上の改善を見せたことで、ユーロドルは堅調な動きを見せた。この日は1.13台半ばまで上昇したものの、翌日以降は堅調なドルの影響で、ユーロドルは軟調な動きとなった。

ユーロドルは10日に1.14台前半まで上昇したものの、上げ一服後に修正安に転じて1.11台後半まで下落した。その後は1.13台半ばで戻したものの、上値を追う流れが続かない。ユーロ圏の経済指標には明るい兆しが見られるものの、ドルの堅調さもあって、ユーロドルは方向感の出にくい展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1400ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に独6月消費者物価指数速報値、カナダ5月鉱工業製品価格、30日に中国6月製造業購買担当者景気指数、英第1四半期国内総生産（GDP）確報値、スイス5月小売売上高、スイス6月KOF先行指数、ユーロ圏6月消費者物価指数速報値、1日に豪5月住宅建設許可件数、中国6月財新製造業購買担当者景気指数、独6月雇用統計、独6月製造業PMI確報値、ユーロ圏6月PMI確報値、英6月製造業PMI確報値、2日に豪5月貿易収支、スイス6月消費者物価指数、ユーロ圏5月生産者物価指数、ユーロ圏5月雇用統計、カナダ5月貿易収支、3日に豪5月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。